
学会報告

言語学関連学会の参加報告

彭 国 躍

・第141回日本語学会

11月27日（土）と28日（日）に東北大学で行われた日本語学会に参加した。一日目の研究発表会の司会を担当し、その前後にいくつか興味のある発表を聞いた。今回の大会発表には「事象関連電位」、「ERP波形」、「脳内メカニズム」などのような術語が目立ち、文・理間の学際研究が進んだことを肌で感じた。脳電図と測定数値を前に発表内容を懸命に理解しようとする参加者の真剣な姿が印象に残った。二日目（28日）にはシンポジウム「脳科学と言語学の対話」があったが、学内入試業務のため残念ながら参加できなかった。

・第13回日本語用論学会

12月4日（土）と5日（日）に関西大学で行われた日本語用論学会に参加した。初日は、アストン大学のMalcolm COULTHARD教授による特別講演会「The Official Version: on the relation between what was said to the police and what was officially recorded」が行われた。実例分析を通して、イギリスの法言語学における新しい研究動向が紹介された。質疑応答の時に、イギリスでは言語学者がどのようにして司法関係者とコンタクトを取り、情報や意見の交換をしているのか

という質問に対して、イギリスの警察や裁判官は比較的謙虚に言語学者の意見に耳を傾けてくれるという教授の答えに、会場では「お～」という関心と驚きの声があがった。日本では裁判関係の資料を言語学者が直接分析し、ましてや研究発表す

ることはきわめて困難なことを会場の方々がよく知っていたからであろう。二日目は研究発表会分会の司会を担当し、いくつかの発表に参加した。今回の学会参加は大変勉強になった。
